

地域社会との緊密な連携を築く

学校と地域が協働し子どもたちを育てるために

あま市立甚目寺小学校 P T A

1 はじめに

本校の周りには、飛鳥時代に創建された甚目寺観音をはじめとする歴史的・文化的・伝統的な遺産が数多く存在する。この地域を「ふるさと甚目寺」として持続発展させていくために、本校では10年にわたりE S D（持続可能な開発のための教育）に取り組んできた。地域の人や文化に積極的にに関わり、学校と地域がつながることを大切にしてきた。



【甚目寺観音内を通過して通学する児童】

しかし、こうして築き上げた地域との絆がある一方、商店街の衰退や子ども会組織の廃止など、子どもたちが地域の行事などに関わる機会が減っている状況が見られた。また、仕事との両立の課題からP T A役員の成り手の減少も課題であった。そこで、地域で減った子どもたちの体験活動を補うため、また学校の教育活動を支えるため、隙間時間に学校に関わりたいと考えているボランティアによる活動の充実と、参加しやすいP T Aの体制づくりを図ってきた。

また昨年度からのコミュニティ・スクールの開始に伴い、P T A代表と、これまで独自に活動していた各ボランティア団体の代表が集まり互いに協力し、より効果的に効率的に子どもたちを支えるための体制づくりを開始した。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

学校と地域が協働し子どもたちを育てるための環境を整える。

(2) 研究の手立て

- ・ 保護者が参加しやすい、参加したいと思うP T Aの体制づくり
- ・ P T Aとボランティア団体の連携

3 実践活動の概要

(1) P T A組織の見直し

これまで本校のP T A委員は、字委員（地区委員）と学年委員により構成されていた。しかし、字により人数にばらつきがあり、近年スムーズに字委員が選出できなくなってきた。また、字委員のかつて重要な仕事であった登下校の見守り活動が、働く保護者の増加でできなくなっ

きたことから学年委員と同じ仕事を手分けして行うようになり、字委員の存在意義が失われていた。

そこで、本年度から字委員を廃止し学年委員のみを構成員とした。人員の不足数は、学年委員の人数を倍にすることで補うことにしたが、それでも前年度より人数減となるので、委員会組織と活動内容の見直しも同時に行った。これまで4部会あった委員会を3つに統合し、活動内容の精選を図った。

(2) P T A委員が負担なく、楽しく活動できるための見直し

P T A委員はよいが委員長・副委員長などの役員に選ばれたら大変そうだからという理由でP T Aを敬遠されている保護者もいる。そこで、一部の役員に仕事が集中するのを防ぎ、一人一人が責任もって仕事をし、やりがいを感じてもらえるように、仕事内容の分担をはっきりさせた。そして、もし何らかの理由で決められた役割が果たせなくなった場合は他の役割にまわることにした。こうすることでP T A委員になっても、1年間仕事をせずに終わってしまう人がなくなり、不公平感が減少した。

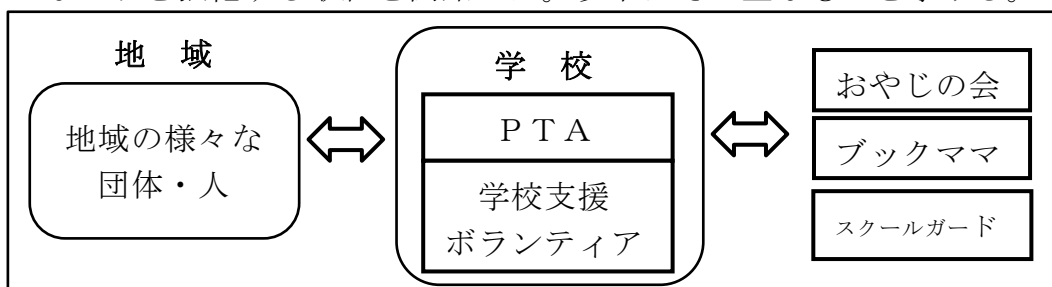
またP T A委員の特典として、専用札を提示すれば、これまで公開していなかった学校行事や授業等を参観できたり、運動会などでは本部席近くから写真撮影ができるようにしたりした。これだけでもP T A委員になる価値があるという声もあがっている。

(3) P T A委員以外の人材確保（学校支援ボランティア）

P T A委員に選出されなかった方、P T Aの仕事は難しいが、もう少し気楽に学校に関わりたい、普段の子どもの様子をもっと見たい…そんな思いをもつ保護者の力を取り込むため、昨年度から学校支援ボランティアの募集を行い、現在約20名のメンバーが様々な分野で学校や子どもたちを支えている。

(4) P T Aと各ボランティア組織との連携

本校には上記の学校支援ボランティアの他に、以前からスクールガード、ブックママ、おやじの会というボランティア組織がある。スクールガードは登下校の見守り、ブックママは図書室の整備や子どもたちへの本の読み聞かせ、おやじの会は子どもたちが参加できる様々なイベントの企画・運営をしている。各組織はこれまで独自に活動を進めてきた。しかし、コミュニティ・スクールが始まったことをきっかけに、横の連携を築き、互いに協力して学校・子どもたちを支える取組や地域とのつながりを強化する取組を開始した。以下にその主なものを挙げる。



① P T A主催の活動

ア クリーンクリーン活動

年2回、校内の除草活動を親子で行っている。昨年度から学校支援ボランティアが加わり、来年度からは地域の老人会の方も加わる。老人会の方の参加はスクールガード活動の縁から決まった。

イ 家庭教育学級

バレーンアート教室、Tボール教室、情報モラル教室などをこれまで開催してきた。Tボール教室は甚目寺JBCという地元の少年野球チームと協力して行った。JBCの監督が講師、チームの子どもたちがお手伝い係となり、参加親子を支えた。

ウ 親子レクリエーション大会ドッチビー

毎年恒例の人気行事で本年度も約100名の参加があった。親子が6チームに分かれ、総当たり戦で行う。審判はおやじの会、ラインマンはP T A委員が担当するという協力体制が整っている。普段、P T Aにあまり参加できない父親の参加が多い。



【ドッチビー大会】

エ 学校行事の支援

運動会のテント設置や片付けをP T A委員、学校支援ボランティア、おやじの会が協力して行った。20張以上のテント設置は大変であるが、大勢の力が集結し短時間で終了した。

② おやじの会主催の活動

ア ラジオ体操

子ども会がなくなり、夏休みにおやじの会が主催で学校の運動場で行うようになった。このときには学校の隣の甚目寺観音で毎朝行っているラジオ体操の会の方もこちらに参加される。老若男女100人以上が早朝集まってくる。

イ 避難所体験

体育館で子どもたちを対象に避難所体験や防災学習を実施している。あま市防災ネット・自衛隊による講習会や、ボランティアによる炊き出しなどを行った。



ウ 餅つき大会

300人ほどが集まる行事で、餅の調理にはブックママや学校支援ボランティアが協力している。また地元の佐藤醸造の特製みそを使った豚汁が振る舞われ、鳳凰太鼓のメンバーによる演奏もある。地域と一体となったイベントである。

【おやじの会主催 餅つき大会】

③ スクールガードの活動

共働きで子どもたちの登下校を見守ることのできる保護者が減少したことから組織され、もとPTA役員の方が代表を務める。本年度は、地域コーディネーターや町内会長に声掛けしていただき、加入メンバーが増加した。

④ ブックママの活動

毎週月・火曜日に活動し、本の読み聞かせ、購入図書の選定、図書室の整備などを行っている。学校支援ボランティアと兼務している方も多い。学校で依頼する「波の会」のストーリーテリングという催しにも参加されている。他のボランティア団体には知られていない活動なので、互いの活動の理解を深めるため、本年度は見学自由にする予定である。

⑤ 学校支援ボランティアの活動

隙間時間に来校し、学校から依頼したことや、ボランティアが子どもたちのために取り組みたいことなどを幅広く行う。「好きなときにできることを」というモットーなので気軽に参加できることが大きな特徴であり、来校ついでに普段の子どもの姿を見られることが魅力となっている。

現在、約20名が除草作業、樹木のせん定、野菜づくり、遊具のペンキ塗り、校内掲示、校外学習付添補助、プール監視補助、調理実習補助などを行っている。また、PTAや他のボランティア団体から協力を要請され活動することも多い。



【せん定する学校支援ボランティア】

4 おわりに

PTAの意義が問われる昨今ではあるが、活動の見直しを図ることで、やらされ感なく楽しく参加できるようになったという声が聞かれるようになった。また、学校に何らかの形で関わりたい、普段の学校での子どもたちの様子が知りたいという保護者・地域の方がたくさんいることが分かった。ボランティアとの連携により、ボランティアを体験された方がPTA委員に立候補したり、反対にPTA委員の任期を終えた方がボランティアに入ったりということも起きている。地域を流れる川「福田川をきれいにする会」のメンバーから声が掛かり、子どもたちがポスターづくりやクリーン活動に参加するようになったことも成果の一つである。

これまでのPTA活動に捉われず、地域の中の様々な手を借りることは、PTAの活性化、ひいては子どもたちの健やかな成長に大きな力となる。



【川の清掃活動に参加する児童】